



## ◆大会史上初!障スポ全会場にカームダウンスペース設置◆



カームダウンスペースとは、発達障害や知的障害、精神障害の方などで、外部からの刺激や環境の変化に敏感な方が気持ちを落ち着かせることが必要になった場合に利用することを目的としたスペースです。

本県は、障スポで初めて全競技会場(15会場)にカームダウンスペースを設置し、参加した選手等からは「とても良かった。今後の大会においてもこのようなスペースを設けてほしい。」といった声が寄せられました。

## ◆会場におけるバリアフリーの取組◆

バリアフリートイレ、スロープなどの設置やピクトグラムでの表示をはじめ、みんなが安心して大会に参加できる環境を整えました。また、障スポ競技会場や宿泊施設などのバリアフリー情報の発信を行いました。



バリアフリートイレ



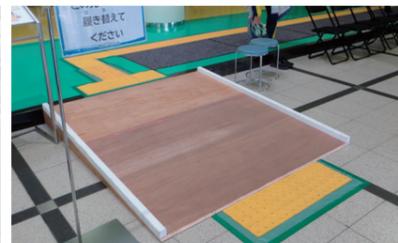
スロープ(屋外)



授乳室・搾乳室



ステップボード・人工芝



スロープ(屋内)・点字ブロック



情報誌「みんなの滋賀たび」

## ◆琵琶湖の形をくり抜いたメダル◆

障害者福祉施設所属の作家作品を取り入れ、視覚に障害がある方も琵琶湖の形を触って感じる事ができるデザインとし、メダルの裏面には、点字で「しがこくすぽ(しょうすぽ)〇い」と刻印しました。



## ◆心のバリアフリーの推進◆

様々な心身の特性や考え方を持つ人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことのできる大会にするため、スタッフや運営ボランティアなど、支える人に向けたリーフレットを県内の大学と連携して作成しました。



手話でコミュニケーション



バリアフリー調査の様子

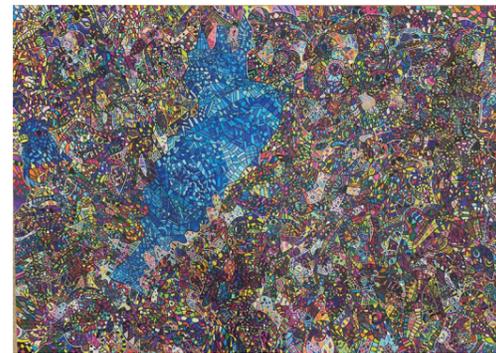


大学生による「心のバリアフリー」発表会



## ◆障害者芸術の発信◆

障害者福祉施設所属の作家が制作した「おもてなしデザイン」で滋賀ならではの歓迎を表現しました。多くの方の目に触れるよう封筒や開・閉会式来場者用の資料袋デザインにも採用し、会場などでの展示も行いました。



日本全国の鳥たち



滋賀県にあつまる





## ◆競技会映像の配信◆

現地で観戦できない方に向けて、国スポの決勝戦および障スポの全試合の映像をインターネットでライブ配信をしました。配信にあたっては実況者と滋賀県ゆかりの解説者をお招きしてルールなどを知らない方でも楽しめるよう工夫しました。障スポ期間中には、競技の様様を多くの方に見ていただけるよう、商業施設でパブリックビューイングを実施しました。



## ◆情報保障における新たなチャレンジ◆

音声配信サービスを用いた実況配信、障スポに加えて国スポ(一部競技)での情報保障席設置など、障害の有無に関わらず楽しめる工夫を実施しました。また、のべ約1500人の手話・要約筆記ボランティアが各競技会場等で情報保障を行いました。



国スポバスケットボール会場の情報保障席



## ◆後催県への継承◆

本大会を通じて得られた経験やノウハウをレガシーとして次期開催県である青森県へ引き継ぎ、共生社会の実現に向けて取り組みます。

